

(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

1. 町及び産業の現状

・和寒町は、塩狩峠の麓に広がり、旭川市から北に38kmのところのところに位置し、面積224.83平方kmを有しています。南は北海道第二の都市である旭川市と接しています。

・人口は、昭和31年の11,736人をピークに、平成26年12月末の人口は、3,699人となり、最盛期の3分の1まで減少しています。

・基幹産業である農業は、その昔、殺虫剤に使われている「除虫菊」の栽培が日本一といわれました。

現在は、先人が保管方法を新開発した「越冬キャベツ」と「かぼちゃ生産日本一」を誇っています。

・現在の農業従事者は、平成2年度と比較して3分の1に減少しています。食の安全・安心といった観点から、消費者の食卓を意識した生産体制への転換、地域特性を發揮した活力ある農業、農産加工による付加価値の向上など農家全体の所得確保が必要となっています。



農業従事者数及び経営耕地面積の推移

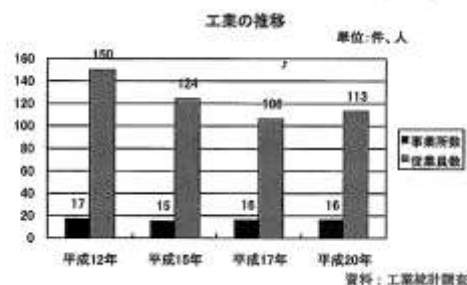
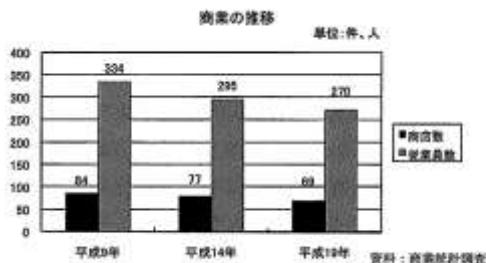
	農業従事者数(人)	経営耕地面積(ha)		
		総面積	田	畑・樹園地
平成2年	2,374	4,597	2,808	1,789
平成7年	1,943	4,449	2,708	1,741
平成12年	1,636	4,288	2,577	1,711
平成17年	1,191	4,270	2,655	1,615
平成22年	967	4,130	2,507	1,623

資料：農林業センサス

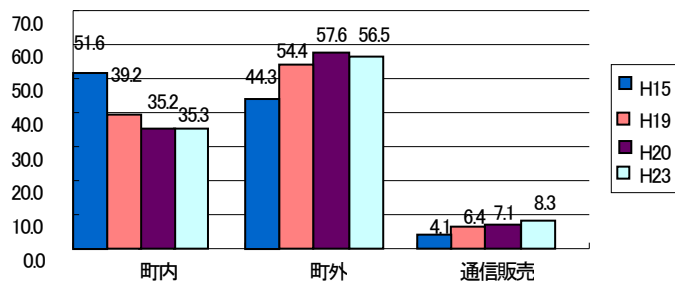
・平成14年度に町の主導で和寒町商業振興店舗近代化促進条例により老朽店舗の改善が促進され、楽しくお買物が出来るよう店舗を改修、あわせて歩道がバリアフリーでカラー舗装されています。

・当町の商工業は、地元購買力の減退や消費の町外流出と非常に厳しい状況下におかれています。高齢化が進み中心市街地の居住人口の減少や空き地・空き店舗が増加してきている状況です。

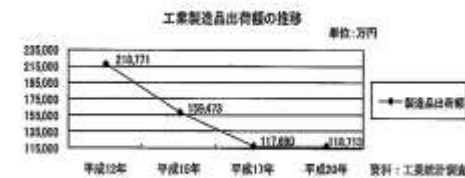
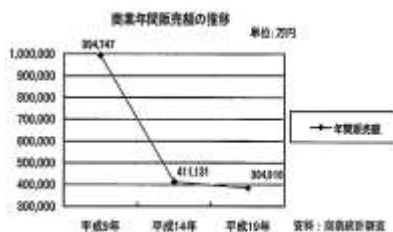
・当町の商工業者数の推移は、商業が平成9年度は84事業所だったが平成19年度では69事業所となり15事業所が減少しています。工業は、平成12年度は17事業所だったが平成20年度では16事業所となり1事業所が減少しています。



・当町の平成15年度のお買物動向調査では、町内購買率が51.6%であったが、平成23年度調査では、35.3%になり、旭川市にイオン旭川西店が平成16年度に開業したため町外流失が顕著に現れています。これを踏まえ町外流失防止策として、町の支援によりプレミアム付商品券発行事業に取り組んでいます。



・当町の商業年間販売額の推移は、平成9年度は994,747万円であったが平成19年度では約3分の1の384,916万円まで減少しています。工業製造品出荷額の推移は、平成12年度は218,771万円であったが平成20年度では、1事業所の減少にもかかわらず約半分の118,713万円に減少しています。



・当町の観光の現状は、塩狩峠には一目千本桜や作家三浦綾子さんの旧宅を復元した塩狩峠記念館があり、南丘森林公園エリアや三笠山自然公園エリアは、観光地として整備されており町内外から家族連れに利用されています。また、「どんとこい! わっさむ夏まつり」などイベントの開催により多くの集客が図られています。

観光入込客数	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
塩狩温泉	16,075	16,132	14,217	13,718	7,481				
塩狩峠記念館	12,032	10,238	9,074	8,339	6,686	4,511	4,490	4,433	4,222
こどもの国	10,974	8,791	6,967	8,863	8,024	9,286	9,897	11,450	12,406
三笠山自然公園	570	346	422	310	482	279	393	277	303
南丘森林公園	11,960	10,470	8,893	9,866	9,751	8,896	7,923	9,511	5,867
各種イベント	16,193	17,634	13,649	16,118	17,346	16,925	18,087	16,089	18,790

※塩狩温泉については、平成17年9月末まで  
 ※各種イベントは夜桜まつり・全日本モトクロス・どんとこい! わっさむ夏まつり・全日本玉入れ選手権バンブーキャンプフェスティバル・樹寒フェスティバルなどが含まれます。

## 2. 小規模事業者の課題

平成14年度、商店街に疲労感が漂う中実施された「和寒町商店街店舗近代化促進事業」は、多くの店舗が新築・増改築を進める結果となり、商店街まちづくり協定による「塩狩峠」をイメージしたデザインや色で統一された商店街は明るさを取り戻し、商店街を縦貫する大通りは拡幅と歩道のバリアフリーが施され、商店街の景観が大きく改善されましたが、近年の高速道路網の整備や大型店の進出による消費の流出が急速に進み、商店街の衰退が顕著となっており、加えて超高齢社会を迎えた今、高齢者が安心して暮らせるシステムを組立てるなど地域の現状を十分咀嚼した中で消費者から「必要とされる・期待される」商店街を構築することが求められています。

小規模事業者の高齢化・後継者不足も課題であり、消費者・小規模事業者双方から「必要とされる・期待される」小規模事業者集団「商店街づくり」を目指すことが必要であります。特に、空き地、空き店舗が増える中、地域住民の満足度は大変低く、現状に不満を抱いており、「商店街のお買い物環境の再構築」など、商店街の活性化に取り組む必要性があると考えています。

また、「かぼちゃ作付け高・生産高日本一」という地域資源・地域特性を發揮した創業・起業として、地元小規模事業者が一丸となり特産品の開発、広域的PR及び地域ブランド化など地域経済活性化が必要と感じていますが、業績の不振や事業主の高齢化、後継者難からくる経営不安は小規模事業者のやる気や意欲を削いでおり、加えて厳しい地域経済の状況下に合って、潤沢な設備資金の調達に不安を抱えるなど、地域の有効な資

源を積極的に活用する動きに繋がっていない状況です。

そのため、今まで以上に後継者不足の解消を推進する等経営体質の強化を図り、事業を継承する方策が急務となっています。

年々縮小する地域経済にあっけいかに地域資源を循環させ、新たな需要を掘り起こすことができるか、本町の基幹作物である「かぼちゃ」を活用した6次産業化が和寒町にとっての喫緊の課題となっています。

### 3. これから目指すこと（目標）

これまで、地域に密着した唯一の総合経済団体として、事業者の経営改善と地域社会の発展を両輪に、和寒町の町づくりの指針となる総合計画に掲げられた「活気あふれる元気なまちづくり」及び和寒町が取り組みを始めた日本版CCRC構想を推進するため、町の現状や小規模事業者の抱える課題の上に立ち、地域に密着した唯一の総合経済団体として、事業者の経営改善と地域社会の発展を両輪に、(1)「商店街のお買い物環境の再構築」など商店街活性化の取組としての売上向上支援、(2)消費者から「必要とされる・期待される」小規模事業者集団の商店街の構築としての地域経済活性化、(3)地域資源を活用した特産品の開発と販売促進としての特産品開発の課題を解決するために、中長期的な振興のあり方を示していくことが求められています。

#### (1) 売上向上支援

内部環境の分析結果を踏まえて、現在実施している各イベント事業をとおして小規模事業者の販売機会を確保し、自社の強みを発揮した販売力に磨きをかけ、売上向上につなげるとともに、買い物弱者対策として取組む支援事業をとおして一層の域内連携や域外連携に取組み、それぞれが持っている「特性・資源」を發揮した販売事業を展開することとして

- ① 各イベントへの参加を積極的に促し販売機会の増加と得られる利益率の向上を図ります。
- ② 買い物弱者が自ら買物を楽しみ商店街に足を運べる仕組みづくりにより町内購買率の向上を図ります。

#### (2) 地域経済活性化

外部環境の分析結果を踏まえて、時代に応じた魅力ある商工業、特に小規模事業者である商店の振興を図り、生活者の活力とコミュニティとしての賑わいを担う商店街に元気を取り戻し、地域資源活用による企業創出、空き地・空き店舗対策及び時代や消費者ニーズに応じた地場産業の開発などを通じて、愛される・魅力ある商店街の形成を進めることとし、その方策として

- ① 日本版CCRC構想を視野に入れた空き地・空き店舗対策計画を策定するとともに具体的な事業展開により空き店舗数減少に努めるとともに、ふれあいの場の創造により対流人口の増加を目指します。
- ② 小規模事業者が地域密着型の事業活動や賑わいの場の創出に取組めるよう個々のやる気とチャレンジ精神を醸成できるセミナーの開催ときめ細かな個別指導を行い、また新規創業及び事業承継がスムーズに出来るよう経営支援をします。

#### (3) 特産品開発

食の安全・安心など消費者ニーズに応じた地場特産品の開発や地産地消による食の循環は6次産業化を推進し小規模事業者にとっても大きなビジネスチャンスであり、地域資源を活用した特産品は和寒ブランド確立のチャンスであることから、市場で評価の高い「かぼちゃ」の付加価値を高めるよう支援に努めるとともに、越冬キャベツ・かぼちゃに続く第3の特産品として「ペポカボチャ」を位置付け、製品の開発・販路拡大等積極的な支援を進めることとして

- ① 和寒ブランドとしての加工品の開発力と販売力を高めるようコンサルティングに努め、販売量の増高を図ります。
- ② 創業や起業に備え、事業目的に沿った補助・助成制度の活用や円滑な資金調達のため有利な融資制度の活用を支援します。

## 経営発達支援事業の内容及び実施期間

(1) 経営発達支援事業の実施期間（平成27年4月1日～平成32年3月31日）

(2) 経営発達支援事業の内容

### I. 経営発達支援事業の内容

#### 1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】

##### [現状及び事業目標]

これまで、小規模事業者に対する経済動向調査の情報は、単なる資料提供であり有効活用されていません。今後、外部の経済動向調査として日経テレコンなどデータを活用し、内部の経済動向調査として企業動向調査を行い、それを基に専門家と連携し、経済動向の分析と説明を強化します。現況の業績や景況の先行きを見通し、各業種の景況感の把握、雇用人員の状況、各業種の仕入単価の動向、資金繰りの状況や見通しなどを事業計画策定するための基礎的数値として活用を図ります。

過去より実施している企業動向調査の結果は、専門家と連携して分析し、そのデータは、「商工会たより」で公表して小規模事業者へ情報を提供していきます。

※現状の課題は、商工会に沢山の情報が収集されているが、その活用は一部会員及び表面的に伝達しているだけに留まっています。この課題を解消するため、小規模事業者以上に上記データの活用方法についても説明強化し、質の高い情報を提供して事業計画策定を実施します。

##### [事業内容]

#### (1) 外部の経済動向調査

日経テレコン、RESAS、全国商工会連合会小規模企業景気動向調査、日本政策金融公庫景気動向調査、北星信用金庫地域経済動向調査により、地域の経済動向調査の情報収集及び分析は、窓口相談時など一部の会員への情報提供に留まっています。

今後は、専門家と連携しその業況の情報を整理し、その分析結果は、経営指導員他が巡回訪問 など会員に接する機会に情報提供し、小規模事業者の経営相談・事業計画策定に活用します。

※日経テレコム・・・企業・人物・業界・市場・海外地域の情報などを調べることが出来る。特に業界のシェア・業況など、消費トレンドや調査・統計・マーケティングの情報収集

※RESAS・・・産業マップを活用し、地域産業の強みを把握し小規模事業者へ情報提供します。

#### (2) 内部の経済動向調査

商工会が役員と事務局共に会員巡回訪問を実施し、その時に企業動向調査を行い 生産高・売上高、利益、雇用人員、資金繰り、設備投資、後継者、営業上の問題点、中心市街地についてなど会員の情報を収集して、今後は、商工会会報で公表した後、「街づくり委員会」において、各種検討する資料とします。

検討結果は、専門家と連携しそのデータを整理し、その分析結果は、経営指導員他が巡回訪問などの機会に情報提供し、小規模事業者の経営相談・事業計画策定に活用します。

#### (3) 各経済動向調査の活用

今まで情報の提供だけであった地域経済動向調査及び企業動向調査の分析結果を活用して、「食品製造・小売業」の課題の抽出を行います。あわせて経営指導員が展示会、商談会で知りえた流通業者やバイヤー達から生きた情報を経営指導員他が巡回訪問などの機会に情報提供し、小規模事業者の経営相談・事業計画策定に活用します。

### [小規模事業者との協同作業]

上記を踏まえ地域の経済動向分析結果を把握し、業界環境の変化と顧客ニーズの見通しを自社のチャンスと脅威に分析して書面に落とし込む作業をします。

#### [目標]

商工会の経営改善指導業務全般の効果的・効率的な運営に資するため地域の経済動向調査を行い、小規模事業者へ経営改善に向けた質の高い情報と事業計画策定の基礎資料として提案できることを目標とします。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
日経テレコム等の提供件数	8	20	40	50	60	70
企業動向調査の実施 (会員対象に調査)	情報提供	調査実施	情報提供	情報提供	調査実施	情報提供

## 2. 経営状況の分析に関すること【指針①】

### [現状及び事業目標]

小規模事業者の持続的発展に向け、経営指導員の巡回・窓口相談計画的に実施し、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書に関するセミナーの開催等を通じて、また商工会が推進しているネットde記帳を実施している企業は、その資料を使って、小規模事業者の経営分析を行い売上及び利益向上を目指します。

専門的な課題等については、北海道、和寒町、日本政策金融公庫、地域金融機関、中小企業基盤整備機構、ミラサポ、よろず支援拠点のコーディネーター等と連携し、小規模事業者の抱える経営上の悩みに対してより丁寧にサポートします。

※現状の課題は、小規模事業者に分析結果を単なる情報の提供であり、見た目でもわかるようなビジュアル的に伝える機会が少ないことです。この課題を解決するため、分析結果を導入したタブレットを活用して見やすい図表で巡回指導時に分かり易く説明すると共に事業計画作成を積極的に提案します。

### [事業内容]

#### (1) 経営分析

今までは、単なる情報の提供であった。今後は、専門家を招聘して事業展開を進めている「食品製造・小売業」に特化した販売戦略セミナーの開催、経営に関する相談業務において分析の対象となる小規模事業者をピックアップし、経営状況等を把握し、専門知識を有する上記関係機関と連携し、ネットde記帳で得られる経営分析で売上高、利益率、損益分岐点等の項目を基に経営分析を行い、見やすい図表で巡回指導時に分かり易く説明します。

#### (2) 経営分析の活用

上記の結果をもとに専門家と連携して経営課題を抽出するとともに、事業計画の作成を促し、今までの口頭、文章の情報伝達のみではなく、今後の分析結果は、目で見ても理解しやすい図表等を使用して、小規模事業者の経営改善に結びつけ、経営の持続的発展に活用します。

### [小規模事業者との協同作業]

経営分析で得た結果を基に、自社の強みと弱みを把握し、目に見える様書面に落とし込む作業をします。

#### [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
巡回訪問件数	800	800	810	810	820	820
セミナー開催回数	0	1	2	3	3	4
経営分析件数	3	8	10	12	14	16

### 3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】

#### [現状及び事業目標]

小規模事業者が経営課題を解決するため、上記1. 地域の経済動向調査、上記2. 経営分析の結果を踏まえ、専門家と連携し、地域資源の農産食材を活用した商品開発や、小規模事業者が各支援制度及び補助金等の事業計画作成を支障なく進めることが出来るよう支援します。財務分析に係わるセミナー、ネットd e 記帳の資料等の結果を踏まえ、事業計画策定の支援及び設備投資等で必要な資金繰りなど和寒町、北星信用金庫等とも連携し、伴走型の指導及びフォローアップを行い、小規模事業者の売上の向上及び利益の確保を図り事業の持続的発展を目指します。また創業希望者や事業承継の課題を抱えている人との掘り起しを行い、創業塾及び第二創業の支援を行います。

※現状の課題は、上記でも述べたように分析結果を伝えているだけで事業計画策定する支援まで至っていない。この課題を解決するために、各分析結果の情報提供はもとより、事業の売上向上及び利益確保により持続的発展のために事業計画等策定を積極的に支援します。また創業者、第二創業、事業承継の抱えている課題の情報は、相談があって初めて確認しているだけなので、積極的に情報収集を行い小規模事業者の掘り起こしを行います。

#### [事業内容]

##### (1) セミナー等の開催

事業計画策定等に関する販売戦略セミナー、売上向上、販路開拓等個別相談会の開催により、事業計画策定を目指す小規模事業者の掘り起こしを行います。

##### (2) 窓口・巡回相談の強化

窓口相談、巡回指導時に、小規模事業者からの事業承継相談等を受けるとともに、書類形式に捕らわれずにその考えを目に見える様にするため、箇条書き方式で表現して書類アレルギーを取り除きながら、事業計画策定を目指す小規模事業者の掘り起こしを行います。

##### (3) 財務相談に関する強化

事業計画策定を目指す小規模事業者の他、事業承継相談、金融相談、小規模事業者持続化補助金の申請時に事業計画の策定支援を行います。小規模事業者持続化補助金の活用についてさらに周知し、現在は、1件の実績であるが、小規模事業者が設備投資に意欲が湧くよう制度の説明をして、事業計画と共に今後多くの小規模事業者が活用するよう推進を図っていきます。

##### (4) 関係機関の支援策等の周知

事業計画策定時に、国、北海道、和寒町、中小企業支援総合センターの行う支援策等の広報、案内により周知し、フォローアップを実施します。

##### (5) 創業塾の開催

現在、未実施である創業塾（全4回開講）を開催し、その募集に当たっては、社会課題を解決するコミュニティービジネスの創業者を発掘するため役場・自衛隊などの定年退職者をターゲットに情報を提供すると共に、商工会会報に掲載、募集チラシの新聞折り込み、当会HPに掲載などの周知徹底を図り、多くの参加者を募ります。創業塾では、RESASの自治体比較マップの使い方や創業希望者の知識向上を図ります。創業者の財

務上の壁となりうる資金面では、日本政策金融公庫の指導を頂きながら有利な国の融資制度を活用できるよう計画づくりをして、創業計画の策定支援を行うことにより、創業の開業への道筋を支援します。

## (6) 第二創業の支援

第二創業（経営革新）に関しては、今までは、小規模事業者から相談があつてから相談指導に当たっていましたが、今後は、必要に応じてミラサポ・よろず拠点など活用した個別相談会を開催し、第二創業（経営革新）計画の策定を専門家と共にアドバイスをを行い、伴走型の支援をします。

### [小規模事業者との協同作業]

1. 地域の経済動向調査で得た業界環境の変化と顧客ニーズの見通しを自社のチャンスと脅威の把握及び 2. 経営状況の分析で得た自社の強みと弱みを事業計画の書面に落とし込む作業をします。

### [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
セミナー・説明会開催回数	0	1	2	3	3	4
事業計画策定事業者数	1	8	10	12	14	16
フォローアップ件数	3	8	10	12	14	16
創業塾開催回数	未実施	4	4	4	4	4
創業支援者数	1	1	2	2	3	3
第二創業（経営革新）支援者数	1	1	2	2	3	3

## 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】

### [現状及び事業目標]

小規模事業者が経営課題を解決するため、上記3. で作成した事業計画の目標達成のために、事業進捗状況を見ながらPDCAにより事業計画の見直しを支援します。また事業計画遂行のために各種補助金の活用を提案します。事業計画実施のための資金不足は、和寒町（企業振興促進条例補助金）、北星信用金庫（和寒町中小企業補償融資、和寒町商工業活性化融資）、日本政策金融公庫（マル経融資、普通融資）等とも連携し、伴走型の指導・助言を行い、フォローアップを図ります。

地域における新規創業者及び第二創業者を支援するため、和寒町（商工業新規就業対策事業補助金）、北星信用金庫（道制度融資の斡旋）、日本政策金融公庫（新創業融資制度、新規開業資金）等と連携して支援を行います。創業後も巡回指導によるフォローアップにより、伴走型の支援を実施します。

※現状の課題は、今までは、定期的な巡回指導に留まっていたが、事業計画策定後は、必要に応じて3カ月に1度巡回訪問し、進捗状況の確認を行うと共に必要な指導・助言を行います。新規創業者に対しては、最初の1年間は、2か月に1度の巡回訪問をして、売上等事業計画の進捗状況を確認し、着実な経営が行えるよう支援します。

※経営発達支援計画認定後は、日本政策金融公庫が実施する小規模事業者経営発達支援融資制度の活用を提案します。

### [事業内容]

#### (1) 関係機関の支援策等の周知

事業計画策定後に、国、北海道、和寒町、中小企業支援総合センターの行う支援策等の広報、案内により周知し、フォローアップを実施します。

## (2) 事業後のフォローアップ

事業計画策定後に、必要に応じて4カ月に1度巡回訪問し、進捗状況の確認を行うとともに、必要な指導・助言を行います。

## (3) 創業後のフォローアップ

今まで創業後の創業者へのフォローアップは、巡回指導の時に現状を聞く程度であったが、今後は、創業者に寄り添いながら専門家と連携し、ミラサポ・よろず拠点など活用した個別相談会を開催します。

担い手交流会は、今まで年1回の開催を年2回開催することにより、先輩経営者と新経営者とのコミュニケーションが図られ、商売のあり方などについて情報共有が出来ます。

巡回訪問による個別フォローアップでは、販売計画、仕入管理、損益分岐点の活用並びに税務相談及びキャッシュフローなど重点的にアドバイスを行い、伴走型の支援を行います。

## [小規模事業者との協同作業]

事業計画を策定することで、普段見えていなかった課題が可視化し、進捗状況も判断しやすくなっているので、P D C Aの作業をして着実な事業計画に修正して行きます。

## [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
巡回訪問（事業計画策定訪問）	6	42	60	68	86	94
各種補助金活用	1	4	6	6	10	10
担い手交流会	1	2	2	2	2	2
専門家派遣事業	4	6	12	12	18	18

## 5. 需要動向調査に関すること【指針③】

### [現状及び事業目標]

地区内のお買い物動向調査を分析することにより、消費者ニーズの動向を把握し、報告書は、巡回指導の時に全会員に届けます。

専門的な課題等については、北海道、和寒町、日本政策金融公庫、地域金融機関、中小企業基盤整備機構、ミラサポ、よろず支援拠点のコーディネーター等と連携し、小規模事業者の抱える経営上の悩みに対してより丁寧にサポートします。

※現状の課題は、今までは、小規模事業者に単なる情報の提供で、分析結果をビジュアル的に伝える機会が少なかったことです。この課題を解決するため、分析結果を導入されたタブレットを活用して見やすい図表を使用して巡回指導時に分かり易く説明し事業計画策定に活用します。

### [事業内容]

#### (1) 需要動向調査

POS情報から業界シェア、業況、消費のトレンド、売れ筋商品などの情報収集及び分析は、窓口相談時など一部の会員への情報提供に留まっています。

今後は、その業況や売れ筋商品の情報及び分析結果は、経営指導員他が巡回訪問 など会員に接する機会に情報提供し、小規模事業者の経営相談・事業計画作成時に活用します。



## ※POS情報・・・売れ筋商品や商品ランキング情報収集

町内の商品の需要動向について、今までは、町内お買物動向調査により収集、分析した結果を文章による情報の提供であったが、今後は、町内お買物動向調査の分析結果は、消費者ニーズの分析をして、売上増、利益向上を図るため、販売管理、仕入管理、商品管理などを経営相談時等にビジュアル的に図表などで提供していきます。

※町内お買物調査・・・地域指定で100名を抽出して①調査対象世帯の状況、②商品別の買物場所、店舗形態、買物理由など、③商店街・一般商店での買い物、④通信販売やインターネットでの買物をアンケート方式で実施

### (2) 需要動向調査の活用

以上の結果をもとに経営課題を抽出するとともに、今までの口頭、文章の情報伝達のみではなく、今後の分析結果は、目で見ても理解を得やすい図表等を使用して、小規模事業者の経営改善に結びつけ、事業計画を作成し経営の持続的発展に活用します。

### [小規模事業者との協同作業]

商品のトレンド、売れ筋商品、消費者ニーズなどを把握し、事業戦略の策定をして販路開拓を目指します。

### [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
POS情報の提供件数(事業戦略)	8	20	40	50	60	70
お買物動向調査の実施 (100家庭抽出)	調査実施	情報提供	情報提供	調査実施	情報提供	情報提供

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】

### [現状及び事業目標]

これまでの上記1から5までに示した地域の経済動向や小規模事業者の経営分析、関係支援機関を活用して、小規模事業者に対して経営問題や販売促進のための品揃えやサービスの向上を支援します。地域資源活用の特産品開発及び商品化を具体化し、地域ブランドを目指します。

手始めに現在、事業展開を進めている「食品製造・小売業」(株わっさむファクトリー、(株)和寒シーズ、(有)フタバ屋菓子舗)の試作段階の商品については、連携している関係機関やマスメディア、住民を対象に試食会を開催し、地元にも新商品の啓蒙普及を図り、地元特産品としての商品評価の情報を収集して、より良い商品を目指して改良し販売拡大を目指します。

企業単独では、解決できない事項は、ミラサポやよろず支援拠点を活用して、きめ細やかなサポートをしていきます。

また、今後の地域における特産品の開発・商品化した既存の商品の認知度の向上を図るため、北のうまいもの市を開催し、消費者及び関係業者にPRするとともに商品に関する情報を収集し、販売促進に繋げていきます。

※現状の課題は、情報が一方的に発信されているだけで、販路拡大に繋がるような活用が不十分です。この課題を解決するために、商工会が保有している情報は、出来る限り商工会のHP及び商工会会報を活用して掲載し、巡回指導時に、販路拡大に伴う販売計画、その計画を実施するための資金調達方法(小規模事業者に有利なマル経資金及び今後予定されている小規模事業者経営発達支援融資制度)など持続的経営に必要な情報の共

有化を目指します。

## [事業内容]

### (1) 町内購買力の掘り起し事業

#### ① もっと気軽にお買物・・・ご用聞き隊事業の展開

商店に買い物に出向くことが困難な消費者の手助けとなるよう取組む「もっと気軽にお買物 ご用聞き隊」は、商工業者の営業車で空き地、空き店舗を利用、福祉施設や自治会館等へ出向いて店開きやご用聞きをするもので、高齢者等から好評を頂いています。これら売上向上支援事業は、新しい販売先の確保など事業承継を考える上での新規事業として、その効果は大きなものがあります。

#### ② ゴールデンタイム in 軽トラ市事業の展開

商工業者と一般町民や各種グループが気軽に軽トラで参加し、市街地商店街の空き地及び周辺駐車場を活用して実施する「ゴールデンタイム in 軽トラ市」は市街地の賑わいづくりに貢献しており、地域住民と店主の対話がより深く形成され、親しみのある商店としての魅力を取り戻し、消費者がお店へ気軽に立ち寄れる環境作りを図っています。

#### ③ プレミアム付商品券ダブルチャンススタンプラリー事業の展開

この事業を展開することにより、消費流通の確保並びに地元消費を促進し、高齢化等による消費活動の減少に伴う売上減を前年度同額の売りに上げに確保できるよう、商工会商業部会では「プレミアム付商品券ダブルチャンススタンプラリー」(実施期間:平成27年7月15日より平成28年1月31日迄)を実施して販売促進事業を展開し、利益確保を図ります。

### (2) 町外への商品PRと販路拡大事業

#### ① 特産品開発事業

平成18年度〇全国展開支援事業を契機に商工会指導の基、平成19年11月町内小規模事業者・農業者が出資金を出し合い、かぼちゃペーストを製造する企業として(株)わっさむファクトリーが設立しました。地域資源である地場産品を使用し地場工場で製造される安心・安全な食料品、製品の質の高さを武器に販路拡大を目指します。

商工会は、平成27年度事業として和寒町の第3の地域資源であるストライプペポの綿を活用した特産品開発事業に和寒町、JA北ひびき、町内小規模事業者と連携し、和寒町独自の商品づくりを開始しました。

新規に販路開拓のため、北海道商工会連合会が主催する商談会に参加し商品PRをし、販路拡大と知名度アップを図ります。

#### ② 地域ブランドの確立・・・和寒町・北海道ブランド

和寒町の主導の基、北海道上川総合振興局の指導を得て、札幌駅構内にある道産子プラザにて、商工会と連携し町内小規模事業者の二社で和寒町の第3の地域資源を使った新商品のテスト販売を実施します。

この事業を通して、札幌市民及び駅通過者に対して、新商品(わっさむペポナッツ、ペポオイル、ペポクッキー)のPRと市場調査及び今後のセット商品の消費者ニーズについて情報収集を行い、新しい商品開発と販路拡大を目指します。

#### ③ 道北地域による販路拡大・PR事業

直近の都市圏である札幌市及び旭川市において開催される、北海道食クラスター事業及び北の食べマルシェに向けて、北海道、和寒町、北星信用金庫と連携して小規模事業者に対して出展支援を行い、和寒町の地域資源特産品の販路開拓と認知度の向上を図り、和寒町への来町機会を図ります。

北海道食クラスター事業では、商工会を經由して経営指導員と共に町内小規模事業者が参画しています。北の食べマルシェでは、町内小規模事業者四社が出店参加して、売上向上を図っています。期間中に信用金庫組合と上川振興局が開催している商談会に当町小規模事業者も出席して、新商品の市場調査と販路拡大をします。

今までは、各会場で得た消費者ニーズや商品のマーケット状況についての情報収集、独自のアンケート調査を実施していますが、活用が不十分です。今後は、その情報を商品開発（商品改良を含む）及び販売計画に反映させ、その資金調達など必要に応じフォローアップします。また得た情報を地区内の小規模事業者へ提供します。

#### ④ 近隣町村協働での販路拡大・PR事業

和寒町において、北のうまいもの市等を開催することにより、地域特産品の販路を開拓しています。北のうまいもの市は、和寒町商工会、剣淵商工会、朝日商工会、幌加内町商工会、士別商工会議所が協力して実行委員会を組織し、開催地は、回り番で年一回開催しています。出店対象者は、地域の特産品を扱っている小売業者及び地域資源を使用した食品製造業者の条件が付されています。

今までは、出店した小規模事業者は、商工会事務局と共に商品のPRと売上向上及び消費者ニーズの情報収集を行っていますが、収集のみに留まっています。今後は、この情報を活用して、より良い商品づくり及び新商品開発のアイデア発掘と共に情報を共有できるよう商工会会報等にも情報を掲載します。

#### ⑤ 人脈の活用による販売促進事業

今まで、商工業者と商談会・展示会など共に歩んで来て得た宝の人脈を生かして、直接バイヤーや流通業者などに商品をPRし、販路拡大を図ります。

### 〔小規模事業者との協同作業〕

各種イベント、商談会、展示会でバイヤーや消費者の生の声を収集し、商品開発・改良へのブラッシュアップ、販路拡大を確実なものにします。

#### 〔目標〕

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
もっと気軽にお買物 ご用聞き隊	3	3	4	4	6	6
ゴールデンタイム in 軽トラ市	1	1	1	2	2	2
プレミアム付商品券ダフルチャンススタンプラリー	60万円	60万円	60万円	60万円	60万円	60万円
北のうまいもの市	1	1	1	1	1	1
来場者数	1,000	1,000	1,100	1,100	1,200	1,200
札幌市、旭川市の展示会・出展参加回数	2	2	2	2	2	2
札幌市、旭川市の展示会出展支援者数	4	4	4	4	4	4

## II. 地域経済の活性化に資する取組

### [現状及び事業目標]

商店街の衰退が顕著となっている今、改めて小規模事業者個々の力の結集が強く求められており、加えて超高齢化社会を迎えた今、地域の現状を十分理解した小規模事業者の力が必要とされています。「必要とされる・期待される」商店街・小規模事業者による地域の活性化が求められていることから、手始めとして商店街に点在する空き地・空き店舗の活用を図るため「空き地・空き店舗活用方法計画」の策定を進めます。

空き地、空き店舗活用方法計画策定については、和寒町（産業振興課）、観光協会（正副会長）、商工業者（正副会長、総務企画委員長、商業部会長、工業部会長、青年部長、女性部長）、学識経験者（裨田道悟、坂本広志）で組織された「街づくり委員会」で検討し、平成27年度には、にぎわい補助金を申請して空き地・空き店舗活用の実施を計画しております。

急速なインターネットの普及やコンビニエンスストア等の進出は消費者の選択範囲を地理的・時間的に飛躍的に拡大させ、一層需要の確保が難しい状況下になっています。

また、高齢者世帯・独居老人世帯が増加する中、いかに買い物弱者といわれる消費者を商店街に誘導し、訪れた商店街に少しでも長く留まり「ふれ愛」を深めていただく場を提供することが課題となっており、小規模事業者も店舗から飛び出し、対面販売により消費者との距離を縮めていくことが信頼を築き、太い絆となり地域の活性化に繋がると考えています。

その手段として、「ゴールデンタイム in 軽トラ市」等事業開催は、商業部会幹事会及び工業部会幹事会を開催し、今後の地域経済活性化の方向性を検討します。また、検討した地域経済活性化の方向性を踏まえ、地域に根差した活力あるまちづくりを展開します。

「ゴールデンタイム in 軽トラ市」については、更なる賑わいを演出するため、商業者以外の、農業者・各愛好会・同好会・クラブなどにも参加を呼びかけるほか、使用車両についても軽トラックだけでなく、軽自動車についても参加を認め、幅広く誰もが参加できるイベントとして取り組んでいくことを考えています。

お買い物お助け隊については、高齢者など利用者から、開催場所を増やして欲しい、頻繁に開催して欲しいとの要望が出ており、現在は、開催回数が3回（開催場所は5カ所）でしたが、平成27年度は開催回数や開催場所を増やすなどの工夫をして行きたいと考えています。

一方で、町内にも民間企業や大手コンビニエンスストアが実施している買い物配達サービスを利用している方が多くおり、自分では運転できず買い物に困っている方も、家族などの支援により近隣の旭川市の大型量販店まで買い物に行っている現状があるため、開催回数、開催場所等については利用者の声を収集し、その声に応える形の実施について、参加者側の意向も踏まえ慎重な検討が必要であるとの認識を持っています。

**※上記事業は、「1. 経営発達支援事業」の実施に当たり、情報提供及び活用を促し経営力向上に繋がります。**

### [事業の概要]

#### (1) 商店等の振興発展を支援

地域の顔であり生活者の一番身近な商店街等の地盤沈下を防止し振興発展を図るため、商工会商業部会では、ゴールデンタイム in 軽トラ市、かぼちゃランタンコンテスト事業など賑わいづくりの支援を行います。

#### (2) 地元企業のビジネスマッチング等を支援

部会活動を通じて、製造業をはじめ建設・サービス・卸小売など地域の企業が新たなビジネスや取引先など事業機会を広げるための支援を行います。

## (ア) 市街地賑わいづくり活性化トライ事業

高齢化や核家族化等により取り残されている地域の買い物弱者支援を図るため、「もっと気楽お買物ご用聞き隊」事業を通じて住みよい地域づくりに貢献します。

## (イ) 各種イベント事業

夜桜祭り、どんとこいわっさむ夏まつり、極寒フェスティバルの開催により和寒町の知名度アップし、来町者の増加につながり商工業者の売上増に貢献されることが期待されています。

### [事業内容]

商工会商業部会では、商店街（商店主）と地域住民の関係が希薄になっていることを解決するため、ゴールデンタイム in 軽トラ市を商工会隣接の駐車場を活用し、商工業者はもとより一般町民の方々及び各種グループも気軽に軽トラでイベントに参加してもらい、語らいのある温かいイベントとして開催しています。

この事業を通して、小規模イベントの利点を生かし、地域住民と商店主の対話がより深く形成され、親しみある商店としての魅力を取戻して来ています。これにより、平成26年度実施したお買物調査にも表れていますが、町内で買い物する機会が増え、商店を訪れる機会が徐々に増えつつあります。（H26年度お買物調査データより：町内調達率は、生鮮食品が7.2%の増加、一般飲食物品が2.9%の増加、日用・家庭雑貨が10.8%の増加がありました。）

### (1) 経営支援・・・担い手交流事業

工業部会活動の担い手交流事業を通じて、先輩経営者と新経営者とのコミュニケーションが図られ商売の情報共有が図られています。製造業をはじめ建設・サービス・卸小売など地域の企業が新たなビジネスや取引先など事業機会を広げるための支援を行います。

### (2) 売上向上・・・ご用聞き隊事業

「もっと気楽にお買物 ご用聞き隊」事業は、商店街から離れた地区で開催することにより住みよい地域づくりに貢献しています。また、空き地、空き店舗を活用して、「交流の場」、「憩いの場」、「買い物の場」を提供することで、商店街の活性化の促進を図り、売上向上の機会が得られています。

### (3) 販路拡大・・・各種イベント事業

和寒町、観光協会、JA 北ひびき、商工業者（青年部・女性部含む）、関係機関で組織した実行委員会形式で実施される夜桜祭り、どんとこいわっさむ夏まつり、パンプキンフェスティバル、極寒フェスティバルは、和寒町三笠山ふれあいのもりを会場に町外者を多数（累計22,000人程度）巻き込んだイベントです。

### [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
開催回数	16	18	18	18	18	18
ゴールデンタイム軽トラ市出展者数	7	10	10	13	13	16
ゴールデンタイム軽トラ市来場者数	500	500	550	550	600	600
かぼちゃランタンコンテスト事業参加者数	43	50	50	55	55	60
担い手交流会事業参加者数	12	15	15	20	20	20
ご用聞き隊出展者数	7	7	10	10	12	12
ご用聞き隊来場者数	70	100	100	120	120	120

空き地、空き店舗活用数	未実施	1	1	2	2	3
空き地、空き店舗活用来場者数	未実施	180	360	500	600	800
夜桜祭り出展者数	4	4	4	4	4	4
夜桜祭り来場者数	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
どんとこいわっさむ夏まつり出展者数	20	25	25	25	25	25
どんとこいわっさむ夏まつり来場者数	3,500	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
極寒フェスティバル出展者数	10	12	12	12	15	15
極寒フェスティバル来場者数	1,800	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000

### Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

#### 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

##### [現状及び事業目標]

これまで、地域経済の活性化や経営改善事業等について、他の支援機関と情報交換を行ってきたが、その内容は総花的・表面的な情報交換にとどまっていたことから、小規模事業者の経営発達に焦点を絞り、積極的に意見交換がなされるよう情報交換の場を活用・運営し、円滑に支援事業が遂行できるようおこなっていきます。

※これまで、情報の交換のみであった。今後は、情報交換により抽出される課題について掘り下げ、関係機関及び職員が課題解決に向けて情報を共有します。

##### [事業内容]

##### 広域による情報交換

士別地域の地域経済の活性化について意見交換をおこなっている士別市商工会議所と釧路・朝日・幌加内町・和寒町商工会広域連携協議会（4商工会連携協議会）による「1市4商工会経済懇話会」において、広域としての課題を掘り下げ「面」として取組む支援策等について情報交換し、課題解決に向けて協力します。

##### （1）諸関係機関との情報交換

道北地区の日本政策金融公庫の「小規模事業者経営改善貸付推進協議会」において、支援ノウハウ、支援の現状、地域経済状況について情報交換をして情報共有を図ります。

##### （2）町行政との情報交換

まちづくりの指針となる総合計画の施策について意見交換がおこなわれる「総合計画審議会」において、産業振興計画に係る振興事業の議論をとおして小規模事業者に対する要望等について情報交換を進めます。また、平成26年度に実施した町理事者と商工会役員との懇談会を継続開催し、町との連携の中で必要な施策・事業の経済的支援について情報交換、特に日本版CCRC構想の情報交換をして地域経済活性化の情報共有を図ります。

##### （3）町内関係機関との情報交換

商工会・町議会・農業委員会・JAの4団体が集う「町内4団体交流会」において、地域資源の地産地消・地域循環等、地域の連携をとおして構築できる事業について情報交換を進め情報共有を図ります。

##### （4）広域連携協議会での情報交換

釧路・朝日・幌加内町・和寒町商工会広域連携協議会の「テラスミーティング（経営支援会議）」において、情報交換、支援ノウハウ、支援の現状、地域経済状況について情報交換をし情報共有を図ります。

## [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
1市4商工会経済懇話会での情報交換会	1	1	1	1	1	1
諸関係機関との情報交換	2	3	4	4	4	4
町行政との情報交換	1	2	2	2	2	2
広域連携協議会の情報交換	3	6	8	12	12	12

## 2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

### [現状及び事業目標]

職員数が少ない小規模な組織にあつては、業務が固定しがちとなり、職員個々の向上心が希薄となり、経営発達支援事業を限られた職員数の中で直実・迅速に行っていくためには、組織が計画性をもって職員の研修体制を確立し、本人の自覚とやる気を引き出す環境を整備し、職員個々のスキルアップを図ります。

発達計画の実効性を高めるためには、小規模事業者の生の声を吸い上げ、把握していくことが不可欠であるが、職員が個々の事業者の内実を含めた現状の把握力が不足していることから「巡回指導の強化」により会話を進め、必要とされる判断力や指導力を培っていきます。

※これまでは、研修を受けても各個人の習得であり、今後は、経営指導員を中心に職場内の勉強会でスキルの共有を図ります。

### [事業内容]

#### (1) 事務局長の資質向上

北海道商工会連合会などが主催する「事務局長研修会」に参加し、商工会の運営・会計・庶務などの資質向上を図り、経改事業及び地域経済活性化事業の潤滑な運営を図ります。

#### (2) 経営指導員の資質向上

全国商工会連合会、北海道商工会連合会が主催する「全道商工会経営指導員研修会」や中小企業大学校の主催する研修に経営指導員が年間1回以上参加することで、売上や利益を確保することを重視した支援能力の向上を図り、今後これら研修から得られた成果を定期的に行う職場内の勉強会で報告し、その成果を職場として共有することで、各々の能力の平準化をめざし、職員全体として資質の向上を図っていきます。

#### (3) 補助員・記帳専任職員の資質向上

北海道商工会連合会などが主催する「商工会補助員等研修会」参加することで、税務・財務・金融の資質向上を図り、また今後、ネット de 記帳の決算書・経営分析の数値を読み取るようスキルアップして、経営指導員の補佐的役割を担います。

#### (4) 広域連携による職員の資質向上

「職員資質向上研修会」では、経営指導員・補助員・記帳専任職員等と情報を共有するとともに、今後、若手経営指導員・補助員等については4商工会連携協議会が主宰する「テラスミーティング（経営指導会議）」を活用し、ベテラン経営指導員とチームで小規模事業者を支援します。

#### (5) 内部環境の整備

経営指導員の能力を十分発揮するためには、その業務を補完する仕組みが必要であり、特に補助員の資質向

上が必須です。当該計画の策定を当初から関わり、育てる環境を整え、指導・助言内容、情報収集方法を学ぶなど、今後、OJTにより伴走型の支援能力の向上を図ります。

## [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
事務局長の資質向上	庶務	地域経済活性化事業	未定	未定	未定	未定
経営指導員の資質向上	事業展開支援	経営支援基礎	経営戦略強化	地域経済活性化支援	事業展開支援	地域経済活性化支援
補助員の資質向上	経営管理	中小企業支援	未定	未定	未定	未定
記帳専任職員の資質向上	消費税改正	一般研修	未定	未定	未定	未定
広域連携職員研修	ASPの活用	ネットde記帳	財務分析	未定	未定	未定

## 3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

### [現状及び事業目標]

今までは、計画的に実施されていなかった事業の実施状況把握、成果の評価、事業の見直し、結果報告を、今後、計画的に下記委員会を通して、毎年度本計画に記載の事業の実施状況・成果の評価・事業見直し・結果報告について、以下の方法により評価・検証を行います。

### [事業内容]

#### (1) 事務局による検証

新たに3か月毎に事務局で経営発達支援事業進捗会議を実施し、事業の進捗状況を確認及び事業内容を検証します。

#### (2) 経営改善普及事業の評価・検証

今までは、年2回の開催を年4回開催し、「経営改善普及事業推進委員会」により、経営改善普及事業を主体的に事業の実施状況、成果の評価・事業の見直し(案)の提示を行います。

#### (3) 経営発達支援計画の評価・検証

今までは、年2回の開催を年4回開催し、「街づくり委員会」により、経営発達支援計画の事業について事業の実施状況、成果の評価・事業の見直し(案)の提示を行います。街づくり委員会の委員は、和寒町(産業振興課)、観光協会(正副会長)、商工業者(商工会正副会長、総務企画委員長、商業部会長、工業部会長、青年部長、女性部長)、学識経験者(裨田道吾、坂本広志)です。

#### (4) 理事会での評価・見直し

今までは、年4回の開催を年6回開催し、「理事会」において、「経営改善普及事業推進委員会」及び「街づくり委員会」で提示された事業の実施状況、成果の評価・事業の見直し(案)の方針を決定して、行動に移します。

#### (5) 事業の結果報告



事業の成果・評価・見直し・行動の結果については、町及び定時総会へ報告し、経営発達支援計画の承認を受けます。

### (6) 事業の成果報告の公表

事業の成果・評価・見直し・行動の結果は、和寒町商工会会報である「商工会たより」及び新たに和寒町商工会のホームページ (<http://wassamu.org/>) で計画期間中公表します。

#### [目標]

上記の事業内容を効率的・効果的に進めるため、以下の通り目標を設定します。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
経営改善普及事業推進委員会開催数	2	4	4	4	4	4
街づくり委員会開催数	2	4	4	4	4	4
理事会開催数	4	6	6	6	6	6
町及び会員への報告	定時総会	定時総会	定時総会	定時総会	定時総会	定時総会
商工会会報での公表	随時	4	4	4	4	4
ホームページでの公表	なし	4	4	4	4	4

(別表 2)

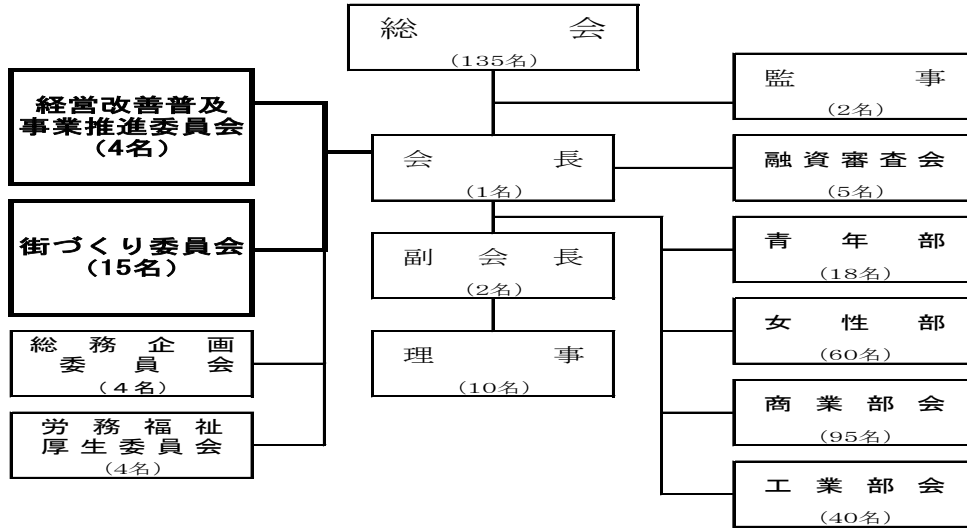
経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制

(平成 27 年 1 月現在)

(1) 組織体制

< 和寒町商工会組織図 >



和寒町商工会事務局

事務局長	1名	安孫子	敏己
経営指導員	1名	吉田	光秀
補助員	1名	山本	真悟
記帳専任職員	1名	村中	早苗
記帳指導員	1名	金田	奈美

(2) 連絡先

和寒町商工会  
098-0132 北海道上川郡和寒町字西町18番地  
Tel 0165-32-2341 Fax 0165-32-3104  
Meil wamu18@rose.ocn.ne.jp  
HP <http://wassamu.org/>

(別表 3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	平成 27 年度 ( 27 年 4 月 以降)	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
必要な資金の額	5,620	5,620	5,620	5,620	5,620
経改事業費	480	480	480	480	480
旅費	360	360	360	360	360
指導事業費	100	100	100	100	100
小規模事業 施策普及費	20	20	20	20	20
地域振興事業 費	5,140	5,140	5,140	5,140	5,140
総合振興費	1,340	1,340	1,340	1,340	1,340
商工業振興 費	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
広域連携事 業費	200	200	200	200	200
街づくり対 策調査費	150	150	150	150	150
商工業活性 化事業費	450	450	450	450	450

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費 2,629、道補助金 117、町補助金 2,874

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

(別表 4)

商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
<p>国の小規模施策に係る支援を有効に活用するため、行政、北海道商工会連合会、金融機関、その他支援機関との連携を図り、スムーズ且つきめ細やかな支援を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 地域の経済動向調査に関すること</li><li>2. 経営状況の分析に関すること</li><li>3. 事業計画策定支援に関すること</li><li>4. 事業計画策定後の実施支援に関すること</li><li>5. 需要動向調査に関すること</li><li>6. 新たな需要の開拓、新商品開発に寄与する事業に関すること</li><li>7. 地域活性化事業の空き地、空き店舗の活用方法計画策定</li><li>8. 地域活性化事業の夜桜祭り、どんとこいわっさむ夏まつり、極寒フェスティバルの実施</li></ol>
連携者及びその役割
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 名称:北海道経済産業局 局長 秋庭 英人 住所:〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目 札幌第1合同庁舎 役割:北海道経済産業局(中小企業課)の施策など、専門的知識の提供と関連性のあるものについてサポートを頂く。</li><li>2. 名称:北海道 知事 高橋 はるみ 住所:〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目 役割:北海道の施策など、専門的知識の提供と関連性のあるものについてサポートを頂く。</li><li>3. 名称:北海道商工会連合会 会長 荒尾 孝司 住所:〒060-8607 札幌市中央区北1条西7丁目 ブレスト1・7 役割:北海道商工会連合会が有している、専門的知識の提供と専門家派遣などについてサポートを頂く。</li><li>4. 名称:和寒町 町長 奥山 盛 住所:〒098-0132 上川郡和寒町字西町120番地 役割:和寒町の施策の情報提供及び街づくり委員会において事業計画策定・見直しに提案・提言を頂く。</li><li>5. 名称:日本政策金融公庫 旭川支店 支店長 小川 正和 住所:旭川市4条通9丁目 役割:日本政策金融公庫の施策など、専門的知識の提供と関連性のあるものについてサポートを頂く。</li><li>6. 名称:北星信用金庫 和寒支店 支店長 佐藤 正 住所:〒098-0131 上川郡和寒町字南町103番地 役割:事業計画に沿った必要資金の融資及び商談方法のアドバイスなどのサポートを頂く。</li></ol>

7. 名称: 中小企業基盤整備機構北海道 北海道本部長 中島 真  
住所: 〒060-0002 札幌市中央区北2条西1丁目1番地7 ORE札幌ビル6階  
役割: 複雑な高度で専門的な相談案件について、アドバイス及び専門家派遣のサポートを頂く。
8. 名称: 北海道中小企業再生支援協議会  
住所: 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター6階  
役割: 複雑な高度で専門的な相談案件について、アドバイス及び専門家派遣のサポートを頂く。
9. 名称: 北海道事業引継ぎ支援センター 統括 村越 憲三  
住所: 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター7階  
役割: 複雑な高度で専門的な相談案件について、アドバイス及び専門家派遣のサポートを頂く。
10. 名称: 中小企業庁 北海道よろず支援拠点 コーディネーター 中野 貴英  
住所: 〒030-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 経済センタービル9階  
公益財団法人北海道中小企業総合支援センター  
役割: 複雑な高度で専門的な相談案件について、アドバイス及び専門家派遣のサポートを頂く。
11. 北海道中小企業総合支援センター 道北支部 支部長 高橋 昭彦  
住所: 旭川市緑ヶ丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内  
役割: 複雑な高度で専門的な相談案件について、アドバイス及び専門家派遣のサポートを頂く。
12. 名称: 和寒町観光協会 会長 渡邊 裕治  
住所: 〒098-0132 北海道上川郡和寒町字西町18番地  
役割: 街づくり委員会において事業計画策定・見直しに提案・提言を頂く。
13. 名称: 北ひびき農業協同組合 和寒基幹支所 支所長 佐子 雅晴  
住所: 〒098-0132 北海道上川郡和寒町字西町  
役割: 街づくり委員会において事業計画策定・見直しに提案・提言を頂く。

連携体制図等

